

国指定「米子城跡」を文化と観光・癒しの資源へ

市の「伯耆の国よなご文化創造計画」に対案を提唱！

- ☆ 山陰歴史館、市立図書館の修復、増改築(市の計画)に20数億円の投資はもったいない。
- ☆ 現山陰歴史館は、旧庁舎の建物、老朽化で狭隘、展示事業のエンターテインメント効果は期待できない。
- ☆ 現市立図書館の施設は、都市人口3万人の規模。現図書冊子数は23.7万冊。増改築をしても都市人口15万人規模(米子市)の図書冊子数58万冊にはほど遠い。(西部一円の図書館利用も視野に！)

中心市街地の活性化は、魅力ある施設のエンターテインメント効果が決めて。国指定の「米子城跡」を中心に、湊山球場地に複合型の文化「核」施設(知楽の森)を設ける。この「対案」こそ、「生きた税金」の使い道。

絶景の眺望 → 市街地、美保湾、大山、中海、島根半島



市営湊山球場地の再活用計画(案)

(城山、湊山公園、川岸緑道(彫刻)の一体的なまちづくり)

- ☆ 老若男女で楽しめる「歴史」と「文化」の体験
- ☆ 米子城跡に登って、自然の大パノラマと癒し
- ☆ 湊山公園の散策や、ボート・カヌーの体験
- ☆ 加茂川の川岸緑道(彫刻ロード)の散策コース

歴史と文化の交流 「知楽の森」(案)

- ☆ 市立図書館移転新築
- ☆ 伯耆の国古代博物館
(福市考古資料館、淀江民俗資料館、山陰歴史館の統合)
- ☆ 文化、芸術記念館
(岡本喜八映画監督、高木東六音楽家、白井喬二文学者など)
- ☆ 歴史体験コーナー
- ☆ 朝日座(常設館)
- ☆ 米子市の遺跡広場
- ☆ 人形館 など等

「湊山球場の借地買い上げの動き！

国の史跡事業での買取り、大丈夫？

市長は、湊山球場の借地部分の買取りに、国の補助金(80%)を使う考えている。その理由は、「市の持ち出しが少なくて済む」。この補助金は、史跡事業以外の土地利用は制約を受ける。

中心市街地の一等地を「物」づくりに使えない土地取得の方法は、市政の大きな損失となる。

山陰歴史館(旧庁舎)の修復、市立図書館の増改築の計画中止を求めて！

基本計画

「事業の見直し中」

市長は、山陰歴史館の修復と市立図書館の増改築というスタンスを変えないで、「当初の事業費約二十三億円を再度精査して、事業費の額を少しでも減らす。」ことを「事業の見直し」と言っている。

事業費が少なくて済むための検討も必要だが、老朽化と狭隘の施設に、多額の税金を投資して、どのような行政目的を遂げようとしているのか説明責任を果たしていない。

都市ビジョンと

中心市街地の賑わい！

今の「計画」では、中心市街地の賑わいの「格」になるまちづくりや、文化の香る文化行政の期待はできない。

現「計画」が合併記念の特別事業という位置づけから、合併特例債の利用期限、平成二十六年までに、現「基本計画」を見直し、将来の都市ビジョンを展望し、市民「提案」の具体化にむけた「計画」を積極的に推進すべきだ。